

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0871200390		
法人名	有限会社 修明		
事業所名	グループホーム 和み		
所在地	茨城県常陸太田市下河合町953-1 (電話) 0294-70-0753		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (平成20年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	8人、非常勤 6人、常勤換算 5.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,400 円	その他の経費(月額)	18,300 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,180 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月19日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1	要介護2	12		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 85 歳	最低	55 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日立梅ヶ丘病院、やまぶき歯科、志村大宮病院、佐竹南台菜のはなクリニック
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は「最適な環境で最適な介護、満足されるサービスの提供、生甲斐を謳歌する人生」という3つの理念を掲げ、職員は利用者と共に家庭的な雰囲気のなかで穏やかに暮らせるよう支援している。
管理者は年間研修計画を作成し、職員のスキルアップを図るため外部研修を受講させ、受講した職員による報告会を実施し、全職員が共有できるようにしている。
利用者が安心してホームを利用できるよう協力病院を確保し、月2回の往診や看護師による週1回の観察など、適切な医療を受けられるよう支援している。
利用者は地域の人々と共に楽しみごとや役割を共有し、生活感をもちながら生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を運営推進会議やミーティングで話し合い、トイレを見やすく表示したり、理念の文字を大きくして掲示するなど改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価や外部評価の意義や目的を理解しているが、自己評価を全職員で取り組む体制づくりまでには至っていないので、自己評価の意義や目的を再確認するとともに自己評価を全職員で作成することを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議ではグループホームの1日の流れを写真でわかりやすく説明するほか、外部評価の課題等を検討したり、地域に協力をお願いするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記し、利用契約時に説明している。 また、施設内に意見箱を設置し意見等があった場合は速やかに対応できるよう毎朝のミーティングやその都度話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会し、敬老会や地域の祭事、冠婚葬祭、清掃活動などに職員と利用者が参加し交流に努めている。 小学生による探検訪問や幼稚園の慰問、事業所主催の「和みまつり」に多くの地域の人々が来訪し交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「最良な環境で最適な介護、満足されるサービスの提供、生甲斐を謳歌する人生」という3つの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事務所に掲示したり、職員採用時に理念を説明するとともにプレートにして携帯させている。 また、毎日の朝礼時に理念を全職員で復唱し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、敬老会や地域の祭事、冠婚葬祭、清掃活動などに職員と利用者が参加し交流に努めている。 小学生による探検訪問や幼稚園の慰問、事業所主催の「和みまつり」に多くの地域の人々が来訪し交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を運営推進会議やミーティングで話し合い、トイレを見やすく表示したり、理念の文字を大きくするなど改善に取り組んでいるが、自己評価については全職員で取り組む体制づくりまでには至っていない。	○	自己評価の意義や目的を再確認するとともに、自己評価を全職員で作成することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議ではグループホームの1日の流れを写真で説明するほか、外部評価の課題等を検討したり、地域に協力をお願いするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市の担当部署を訪問し、事業所の運営やサービスの課題について常に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりを家族等の訪問時に具体的に報告するとともに「和みたより」でも報告している。 また、毎月の利用料請求時に利用者の近況報告や写真を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記し、利用契約時に説明している。 また、施設内に意見箱を設置し意見等があった場合は敏速に対応できるよう毎朝のミーティングやその都度話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職の際は利用者や家族等に説明や挨拶をするとともに、後任者に十分な引き継ぎをしている。 管理者と職員間で意見の相違があった場合はその都度話し合い、職員の都合に合わせて勤務表を変更するなど離職が少なくなるよう工夫している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年間研修計画を作成し、職員が外部研修を受講してスキルアップできるよう配慮している。 また、施設内でも3ヶ月に1回研修会を実施し、研修報告書を作成するとともに職員で共有できるよう報告会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会や県地域密着型介護サービス協議会に加入し、勉強会や研修会の機会を設けるとともに、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族等にホームを見学してもらい、職員が利用予定者の自宅を訪問したり病院に出向き面会して十分に話し合うなど、安心して利用が開始できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は生活のなかで野菜作りや米作り、昔話を教えてもらったり一緒にお茶を飲んだりして利用者と共に学び支えあう関係を構築している。 また、「ジョイフル和み」楽団を結成し事業所主催の和み祭りで職員と共に楽器を演奏して楽しんでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は生活歴を把握するとともに、日々の変化を見逃さないよう見守りや観察をし、利用者が何を求めているのかを把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日々の係わりのなかで利用者の思いや意見を聴き、全職員で意見交換やモニタリングを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後の状況や効果を全職員で会議で検討し、3ヶ月ごとに見直すとともに状態に変化が生じた場合は随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の状況や希望にそって、通院支援や外泊送迎などを臨機応変に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は利用前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう、家族等と協力して通院を支援するとともに複数の医療機関と連携している。 また、協力医が月2回の往診をするほか看護師が週1回状態観察に訪問するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期について利用者や家族等に十分説明し、同意書を貰っている。 事業所は重度化の実例を基に、終末期におけるケアについて定期的に会議で話し合い、全職員で共有しながら対応方針や支援に向けた体制をつくっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所は勉強会やミーティング時にプライバシーを損なわないケアの意識向上を図るとともに、全職員は排泄支援や入浴支援の際には言葉かけなどに十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの体調に配慮しながら作業療法（ぬり絵・きり絵・おり紙など）やレクレーション、散歩、ドライブなど利用者の希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の持っている力を把握し、職員とともに食事の準備や下膳、食器拭きなどを手伝ってもらっている。 職員は利用者と共に食卓を囲みサポートしながら一緒に食事をしている。 また、年2～3回は外食を企画し実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は希望により毎日入浴することも可能だが、平均して2日に1度は入浴している。 入浴拒否の利用者には言葉かけを工夫して入浴支援をしている。 また、安心して入浴できるよう福祉用具を活用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や趣味を把握し、カラオケや合唱、裁縫など好みにあった楽しみごとを支援している。 また、洗濯物たたみやモップかけなど役割を担ってもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーション担当職員を配置し、年間行事を計画して毎月あるいは季節に応じた花見や海辺のドライブ、葡萄狩り、りんご狩り、紅葉狩りに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、玄関や居室は施錠していない。 職員は利用者一人ひとりの状態を把握し、職員の徹底した見守りのなかで自由な暮らしができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火器の使い方のマニュアルを作成し、夜間を含み年2回の避難訓練を実施している。 また、運営推進会議で地域の人々の協力体制を要請している。 非常用食糧や水を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事量や水分量を記録し、全職員で共有している。 また、一人ひとりの嗜好を把握し献立に取り入れるとともに利用者の状態に応じて刻み食などの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広く明るく造られカーテンで陽光を調節している。 畳部屋には堀こたつ、廊下の隅にはソファを設置し思い思いに過ごせる場所づくりをしている。 また、利用者の写真や作品を飾ったり、季節の花を活けるなど居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローアと畳敷きになっており利用者のテーブルや椅子、洋服ダンス、大切な品物を持ち込み、利用者好みの落ち着いた過ごせる場所づくりに工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。